

が考えられているものが1点出土している。いずれも先端部を欠損しているものである。他に打製石鏃は比較的大型の頁岩製が3点出土している。

②川辺町鷹爪野遺跡

薩摩半島南部の中央寄り、標高約130mの台地に所在する。住居跡の可能性が高い竪穴状遺構8基と集石3基が検出されており、岩本式土器及び前平式土器に共伴して総数29点の頁岩製磨製石鏃が出土している。このうち完形品もしくはそれに近いものは8点あり、大きさは平均して長さが約3～3.5cm 幅1～1.3cmを測ると報告されている。概報のため実測図が掲載されていないのが残念である。また磨製石鏃の未製品などが20点出土しており、それらの中には擦り切りによる素材分割を示す資料も出土している。他に打製石鏃は黒曜石製3点とチャート製1点の計4点出土しているほか、長さ13cmの粘板岩製の磨製石槍も1点出土している。

③田代町ホケノ頭遺跡 (第2図2～8, 3図21・22)

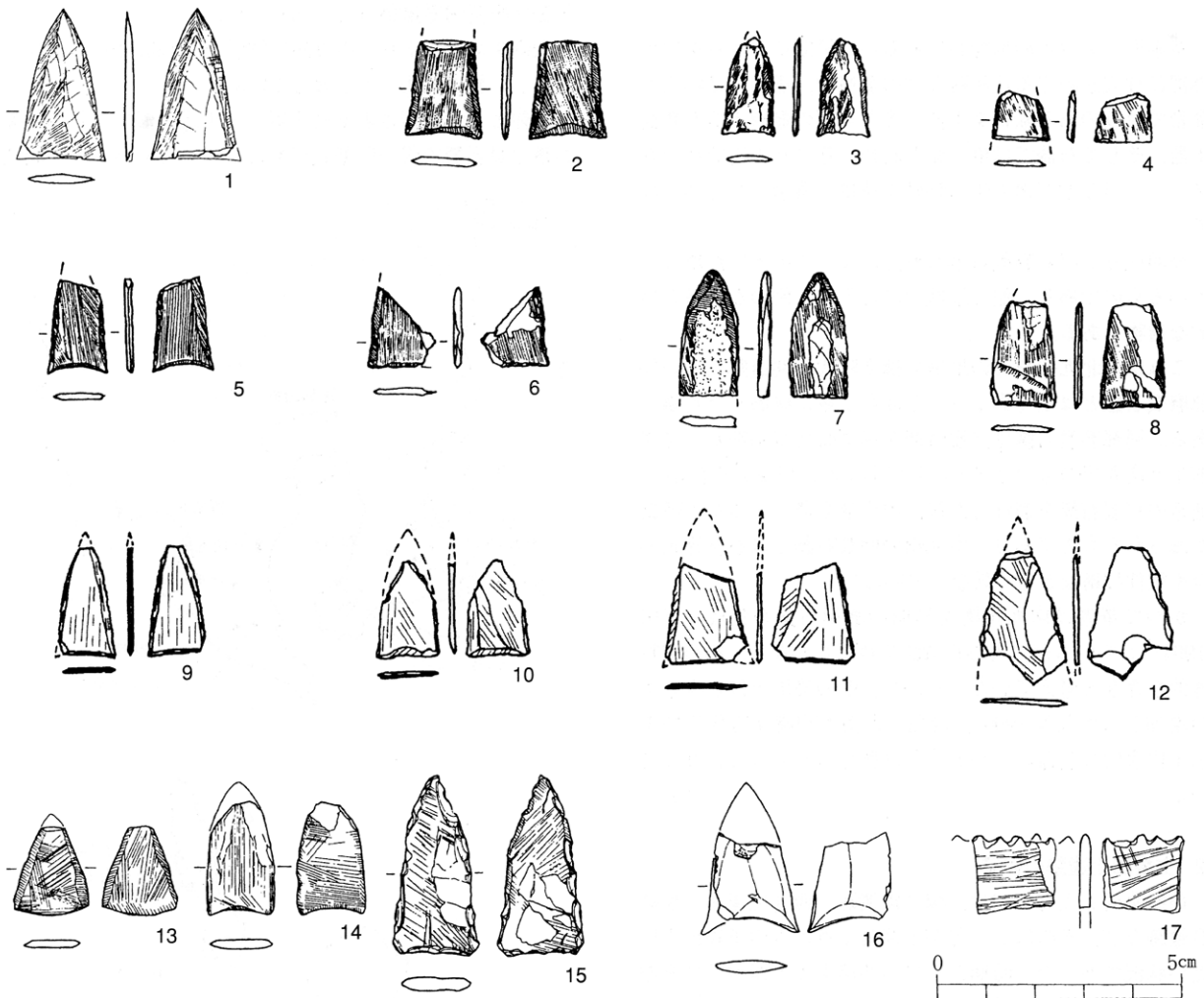
荒田原遺跡に近い位置にあり標高は217mである。岩本式土器や前平式土器に共伴してB地点で粘板岩製の磨製石鏃は7点、打製石鏃は水晶製のものが1点出土している。D・F地点では磨製石鏃が2点出土し、打製石鏃は出土していない。磨製石鏃は荒田原遺跡出土と同じ形態のものである。またB地点では磨製の石槍片と推定されるものも出土している。

④中種子町牛之原遺跡 (第3図17)

標高約100mの台地に位置し、塞ノ神式土器に伴い長さ5cmを越す大型の磨製石鏃が1点出土している。チャート製の打製石鏃も1点出土している。

⑤西之表市奥ノ仁田遺跡 (第2図1)

標高134mの種子島のほぼ中央の台地に位置している。縄文時代草創期に属する唯一の例である。隆帯文土器に伴い1点出土している。また研磨が施された未製品も2点出土している。他に打製石鏃は鉄石英及び頁岩製のものが3点出土している。



第2図 磨製石鏃 (1奥ノ仁田, 2～8ホケノ頭, 9～12荒田原, 13～15小牧3 A, 16・17岩本)